

# 「安全・安心」・「佐野ブランド」をよりいっそう推進

平成24年、佐野市はどのようなまちづくりを進めていくのでしょうか。市民記者の佐藤さん・永倉さんが、岡部市長に今後の市政運営について聞きました。

### 新庁舎建設に向けて

**永倉** 昨年3月の東日本大震災により本庁舎の建て替えを余儀なくされましたが、新庁舎の完成はいつごろでしょうか。また、どんな庁舎になりますか。

**市長** 平成27年3月末を目標に現在進めています。

新庁舎のデザインや機能については、今後設計の中で具体的に検討していくこととなりますが、特徴としては、防災対策・防災備蓄機能や避難場所としての機能を併せ持つ、市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎を目指しています。

さらには環境に配慮した庁舎、すべての人が利用しやすい、市民が誇りや愛着を持てる総合庁舎を目指します。今後この3月末までに設計者の選定を行い、新庁舎建設

を進めていくこととなります。設計につきましては平成24年度1年間をかけて行います。今後も市民の皆さんのご意見を伺いながら、建設を進めてまいります。

**素晴らしい立地を活かしたまちづくりを推進**

**佐藤** 安全・安心、そして活気あふれるまちづくりをどのように推進していきますか。

**市長** 本市では平成19年3月に策定しました佐野市総合計画において、まちづくりの基本方針として「育み支えあうひとびと、水と緑と万葉の地に広がる交流拠点都市」を将来像として掲げております。

この将来像において、「育み支えあうひとびと」は市民と行政の協働によるまちづくり、人と人が支えあう地域づくりを通して、市民の皆さんが安全・安心に暮らせるまちづくりを進めることを目指して



市民記者 永倉文子さん

おります。

また、「水と緑と万葉の地」は、本市が自然環境に恵まれた地域であり、天明鑄物をはじめとした薫り高い歴史と文化を育んできた地域であることを踏まえ、こうした資源を活かしたうるおいとゆとりあるまちづくりを進めることを目指しております。

「交流拠点都市」は、東北自動車道や北関東自動車道が交わる交通の要衝である点を活かして、産業振興や基盤整備を進めるとともに、人と人との交流を図ることで魅力と活力あるまちづくりを進めることを目指しております。

本市は自然豊かで、災害が少なく、歴史をもった交流拠点都市です。今後もこうした部分を活かしてまちづくりを進めてまいります。

### 観光立市をさらに推進

**永倉** 昨年11月に行われた「まちなか活性化ビル」佐野未来館1周年記念イベントでは

「痛車フェスティバル」がたいへんな人気で、他県のナンバーの車も多数見られました。今後、新たなイベントとして定着しそうですね。

**市長** 痛車フェスティバルには、北は岩手県から南は静岡県の方が出車してくださったようです。また、おっしゃるところおり、いろいろなどころから本市に観光にいらしていただき、全国各地へのPRになったと思います。

今後「さの秀郷まつり」や「どまんかフェスタ佐野」はもちろん、いろいろなイベントを通して、本市の魅力をPRしてまいります。

**永倉** 昨年は「さのまる」も誕生しましたね。今後「〇〇長」などの役職をつけて、さらに活躍してもらいたいです。

**市長** さのまるは本当に可愛らしく、皆さんにご好評いただいております。

昨年11月に羽生市で行われた「ゆるキャラさみっと」では、全国各地の多くのゆるキャラの中でも好評だったそうです。昨年は「さのまる応援隊」も発足し、多くの企業・団体さんに加入していただきました。さのまるには、今後も佐野市を広く全国に発信してもらいたいと考えております。

# 新庁舎建設

まちづくり

さのまる

観光立市

放射能測定



**佐藤** 観光立市を掲げていますが、手ごたえはどうですか。  
**市長** 観光立市を進めていくために「佐野らしさ」を打ち出していこうと、佐野ブランド化を進めております。

ブランドキャラクターとして誕生した「さのまる」だけでなく、本市の名物「佐野らーめん」や「いもフライ」といった12品目を佐野ブランドとして認証し、現在もさらなる認定作業を進めております。  
また、佐野ブランド大使として市内在住のロックスンガー、ダイアモンド☆ユカイさんを任命しました。市主催のイベントだけでなく、テレビ番組などで佐野をPRしていただき、本市の活性化に貢献していただいております。  
本市にお客様をお迎えするには「おもてなしの心」が必要です。そこで、「佐野観光ボランティアガイド協会」や「まちの駅ネットワークさの」が発足したところでございます。昨年には北関東自動車道が全線開通し、お客様をお迎えする準備が整いつつあります。このようなことで手応えを感じておりますが、今後も「佐野らしさ」に磨きをかけ、効果的なPRを行い、市民の皆さんや企業、各種団体と連携

しながら観光立市を推進してまいりますので、ご協力をお願いいたします。  
**佐藤** お客様をお迎えするうえで、市内の道路環境整備も必要ですね。

**市長** 本市はありがたいことに、二つの高速道路が交わり3つのインターチェンジを持つ交通の要衝の地です。  
本市ではこうした高速道路付近の整備として、国道50号の6車線化、佐野田沼インターチェンジ周辺の市道の整備を行ったところであります。  
また市内回遊できるような道路・歩道の整備も順次取り組んでおります。  
佐藤さんがおっしゃるように、市内の道路環境を整備することで、少しでも多くの観光客を市内に取り込んでいきたいと考えております。

## 安全・安心の推進

**永倉** 東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、「食」や「水」、「環境」への放射能汚染が心配されます。

他市では市民の要望を受け、空間放射線量などの測定を実施しているようですので、佐野市でも要望に応じた測定の実施をよろしく願います。  
**市長** 本市の空間放射線量に

つきましては、4月1日以降、栃木県が安蘇庁舎において毎日測定を行っており、結果をホームページで公表しております。現在のところ基準の範囲内の数値となっております。

また、文科科学省の調査により本市の北の山間部において、毎時0.23マイクロシーベルトを超える値が出たため、その周辺にある住宅を調査しておりますが、現在のところ基準を超える数値は出ておりません。  
今後、放射線量測定器を利用して、市内を区切つての測定マップを作成していきたいと考えております。  
市民の皆さんからの個別の要望につきましては、昨年12月から測定器の貸し出しを行っており、そこで出た値によっては精密な調査を行いますので、ご要望をお寄せください。  
市民の皆さんが安全・安心に暮らせるよう、今後も取り組んでまいりますので、ご安心ください。  
**佐藤** 市民の健康を守るために、今後市民病院の運営をどのように改善していきますか。  
**市長** 市民病院は内科や外科、小児科など17の診療科目を持つ総合病院です。



市民記者 佐藤久夫さん

平成19年には医師不足などの影響から、常勤の医師が一人もいなくなるような事態にまで陥りましたが、平成20年に指定管理者制度を導入し、医療法人財団「青葉会」に運営をお願いし、福光院長にご尽力いただいたことで、医師の確保も着実に進み、経営的にも改善されてきております。  
現在は立派な先生が増えてらっしゃいますので、病気の時の診療に加え、各種検診や人間ドックなど市民の皆さんの利用を期待しております。  
**佐藤・永倉** 本日はありがとうございました。今後も「安全・安心」な佐野市であるようよろしく願います。  
**市長** 昨年は東日本大震災が発生し、日本全体の安全・安心が脅かされる年でありました。本市でも庁舎の被害などがあったわけですが、こうした災害に対応できるようなまちづくりにも今後取り組んでまいります。本日はありがとうございました。